

## 仙台市障害者等保健福祉基礎調査 アンケート結果【就労】

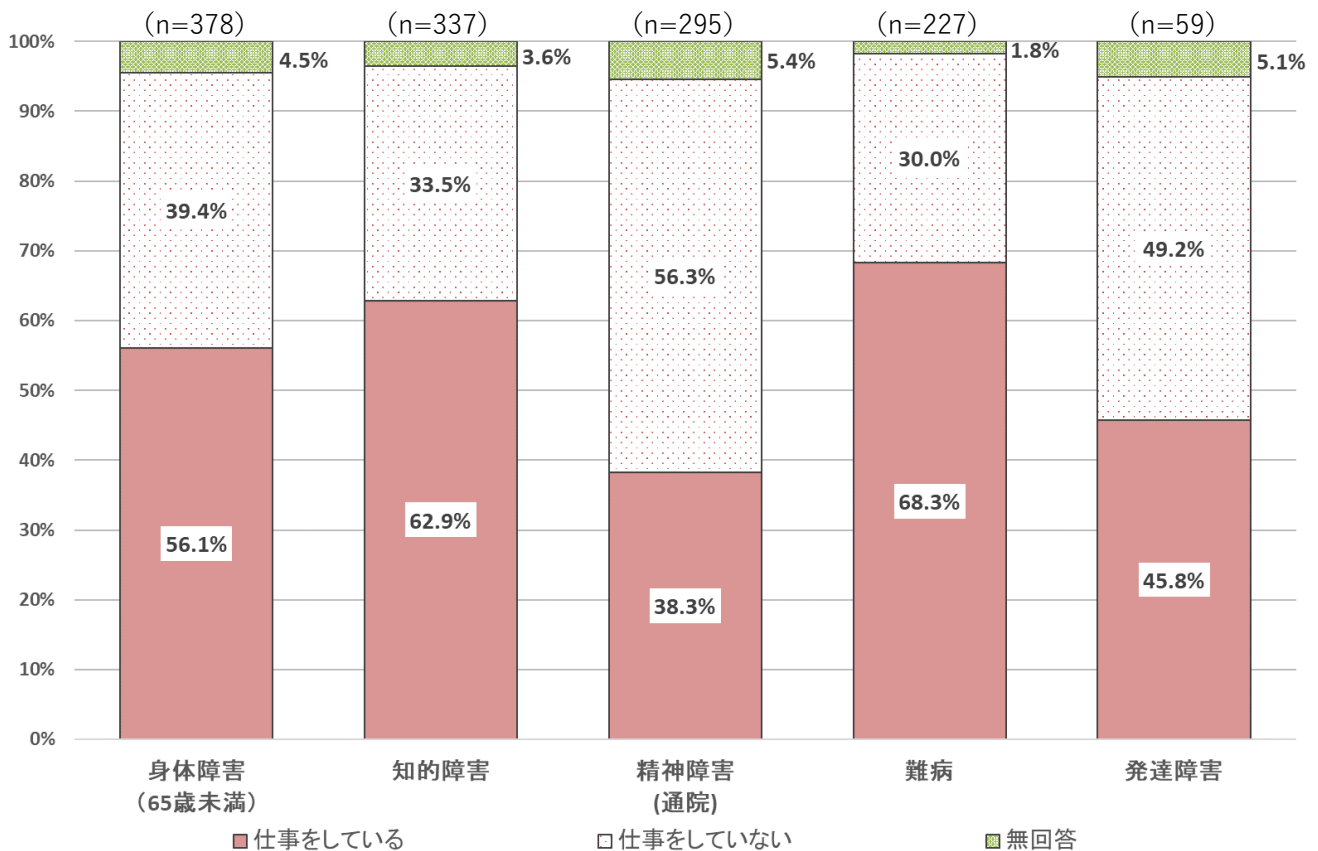
### 1. 本結果を読む際の留意事項

本結果は、アンケートに回答いただいた方のうち、15歳～64歳（生産年齢人口）の方を集計の対象としております。

また、身体障害（65歳以上）については生産年齢人口に含まれないため、精神障害（入院）については就労に関する設問がないため掲載しておりません。

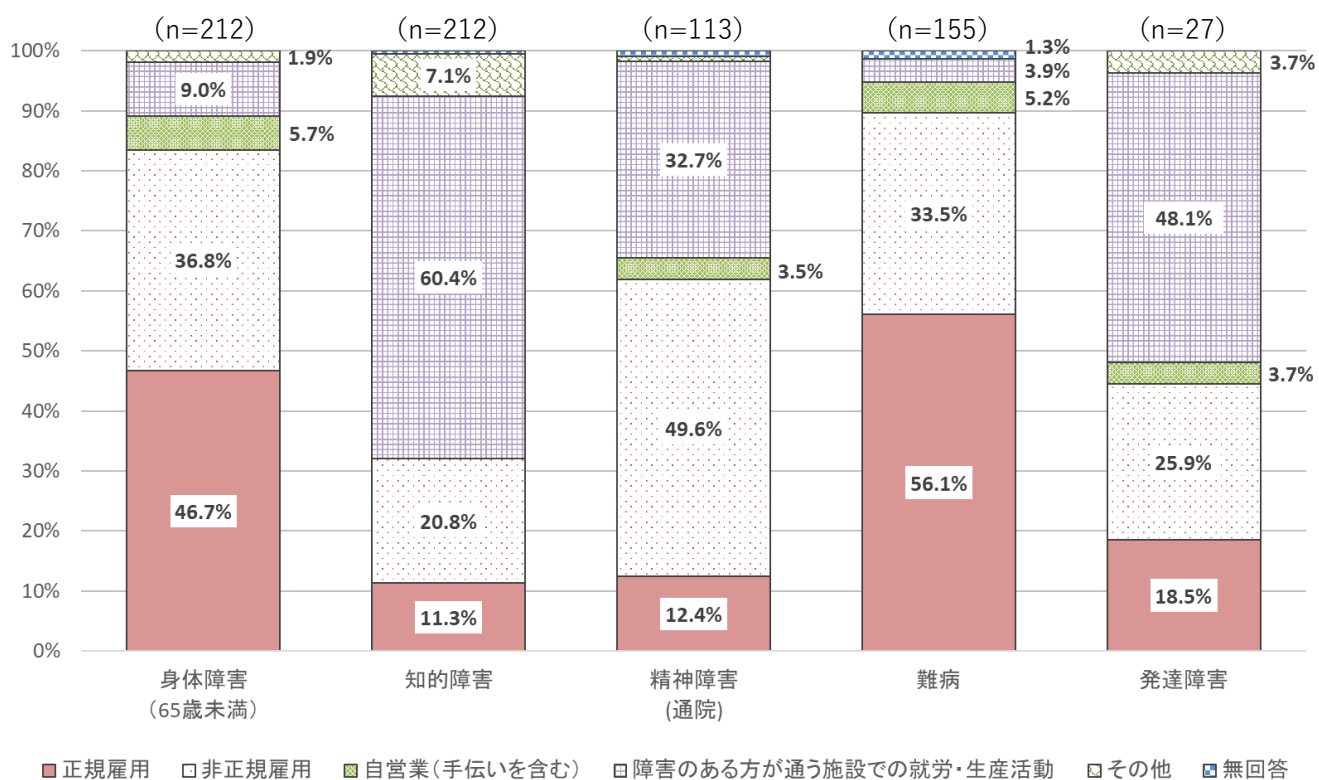
### 2. 就労状況について

就労している方（就労継続支援B型事業所等の利用者を含む）の割合については、難病（68.3%）が最も多く、次いで知的障害（62.9%）となっています。その一方で、発達障害（45.8%）と精神障害（通院）（38.3%）においては、就労している方の割合が50%を下回っています。



### 3. 雇用形態について

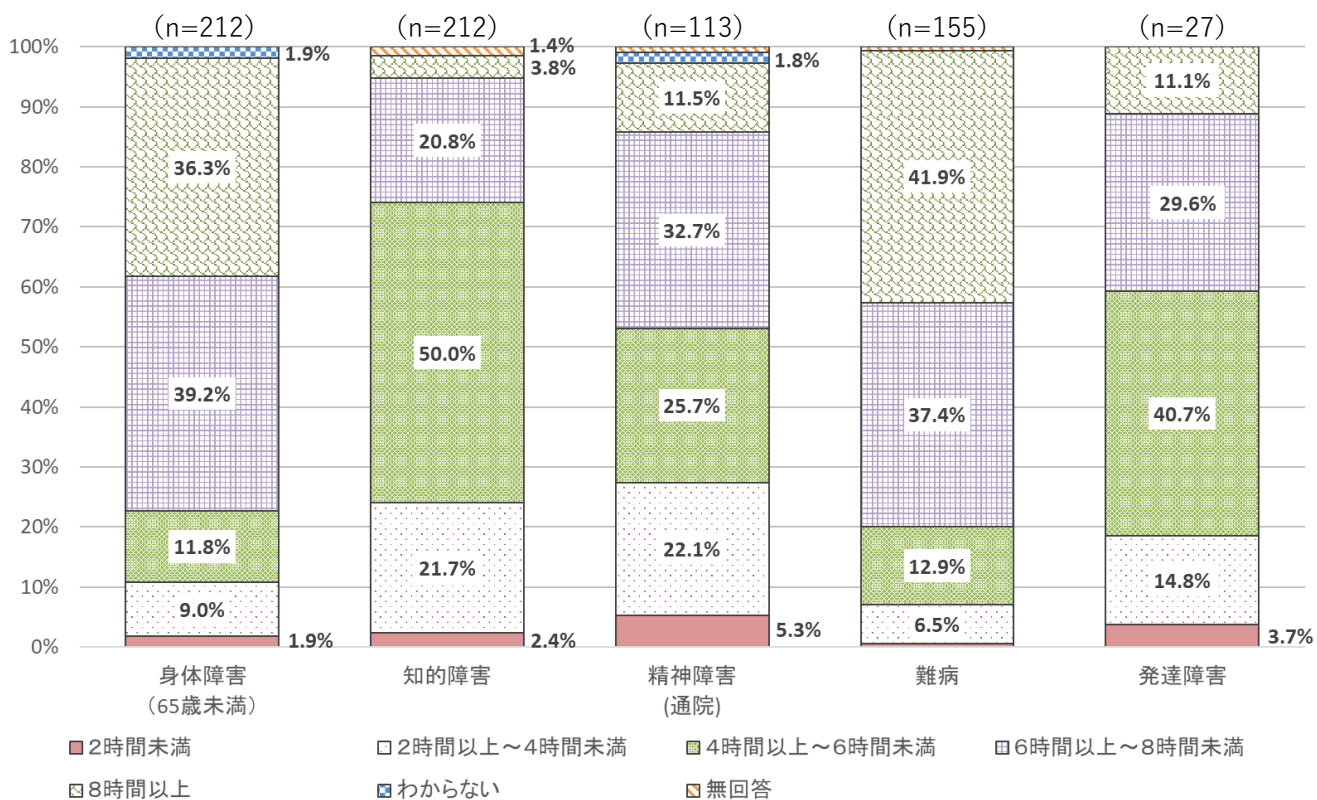
身体障害（65歳未満）と難病では正規雇用の割合が高くなっています。その一方で、精神障害（通院）では非正規雇用の割合が高く、知的障害と発達障害では福祉的就労の割合が高くなっています。



※現在、就労している方のみを集計の対象としております

#### 4. 勤務時間について

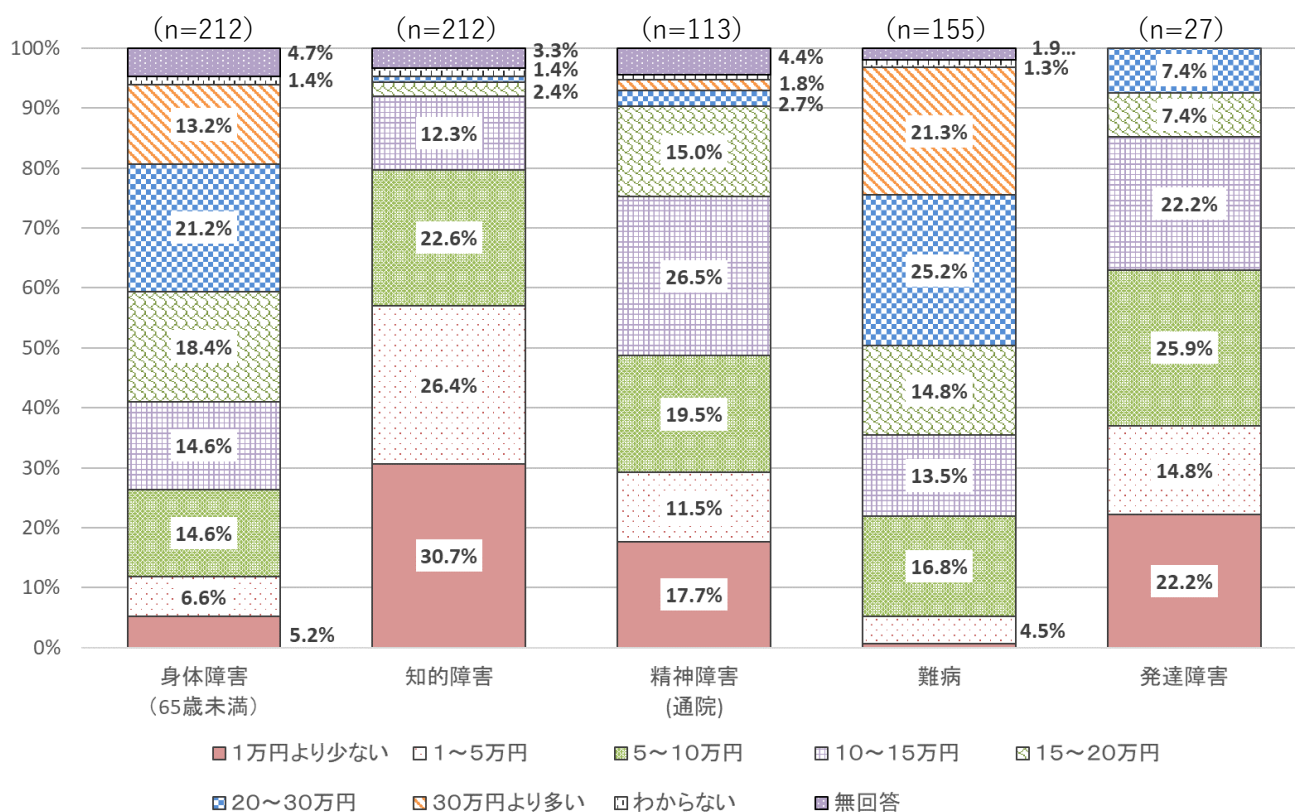
身体障害（65歳未満）、精神障害（通院）では6時間以上～8時間未満と回答した方が多くなっています。また、知的障害、発達障害では4時間以上～6時間未満と回答した方が、難病では8時間以上と回答した方が多くなっています。



※現在、就労している方のみを集計の対象としております

## 5. 月収について

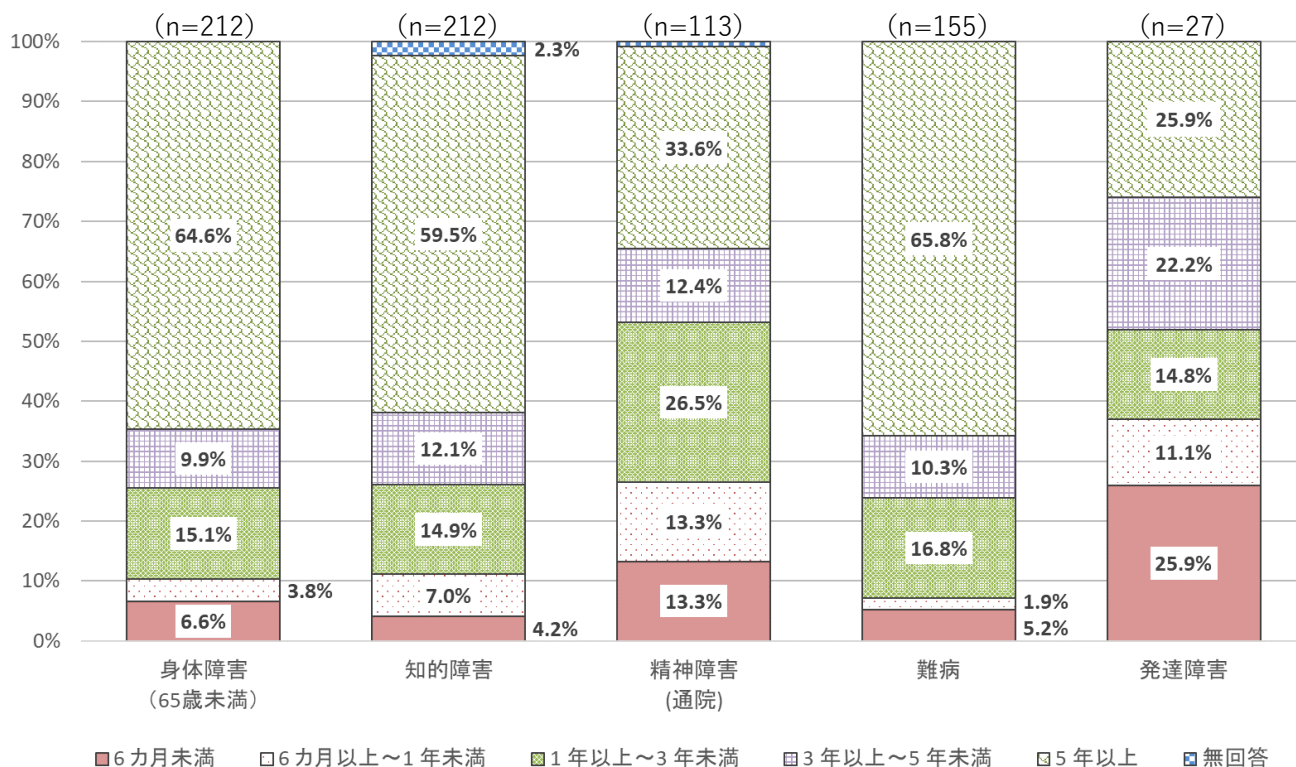
身体障害（65歳未満）、難病では20～30万円と回答した方が多くなっています。その一方で、精神障害（通院）では10～15万円と回答した方が、発達障害では5～10万円と回答した方が、知的障害では1万円より少ないと回答した方が多くなっています。



※現在、就労している方のみを集計の対象としております

## 6. 仕事の継続期間について

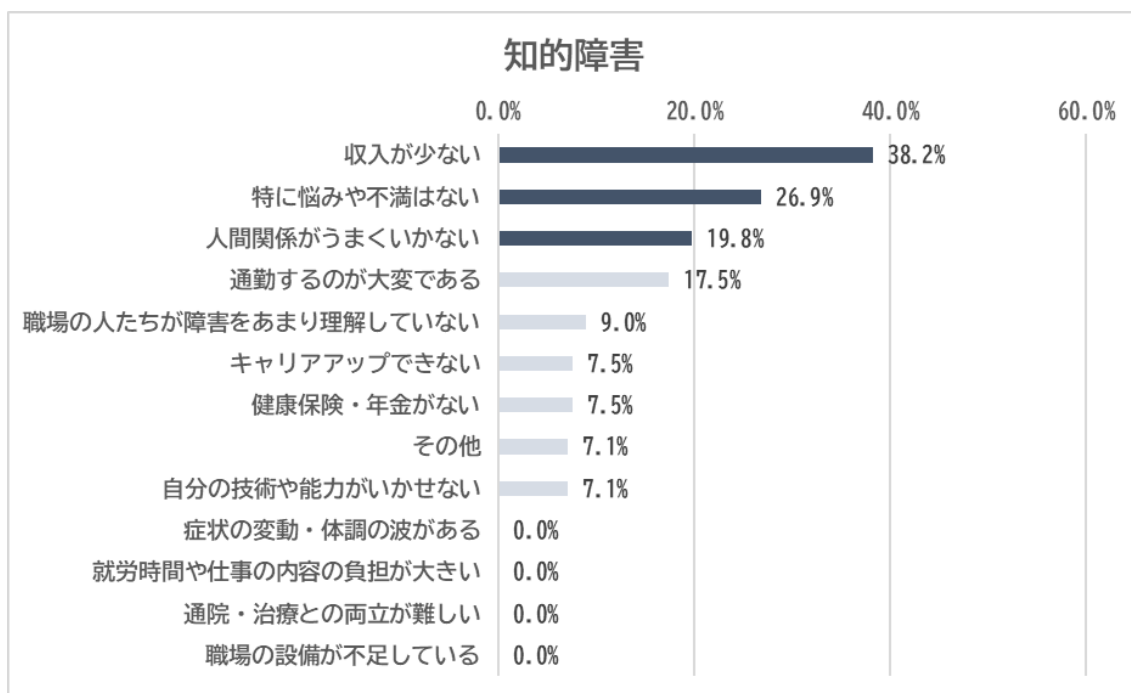
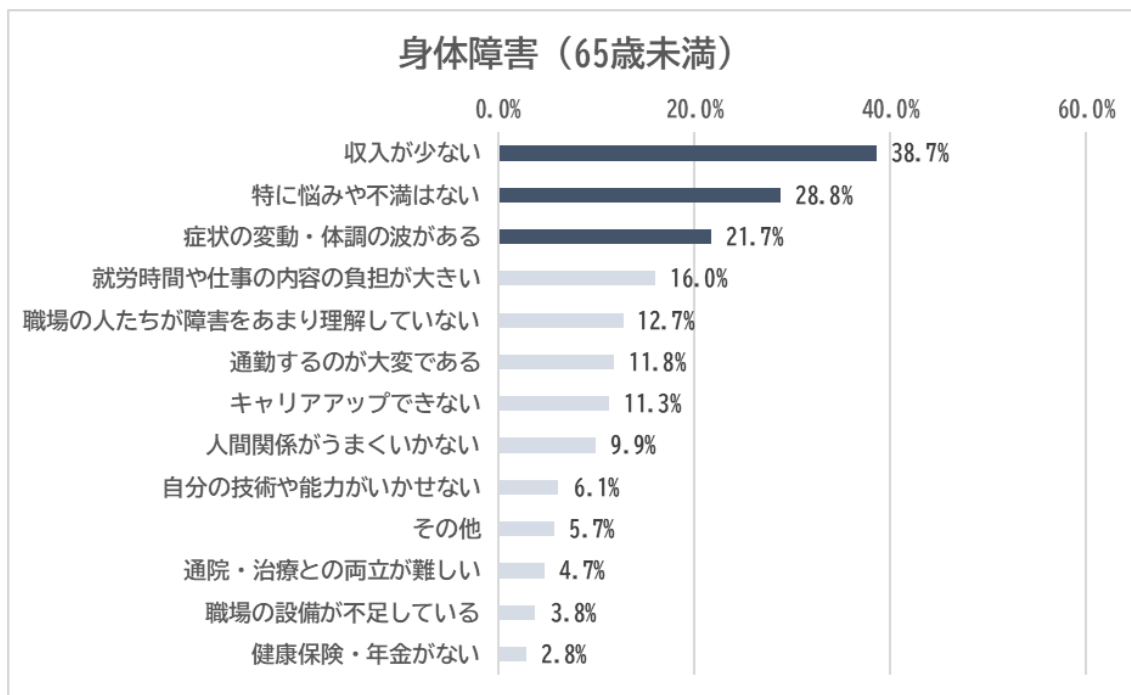
いずれの障害種別においても、5年以上と回答した方が多くなっています。その一方で、精神障害（通院）、発達障害では、継続期間が短い方（3年未満）が多い傾向にあります。



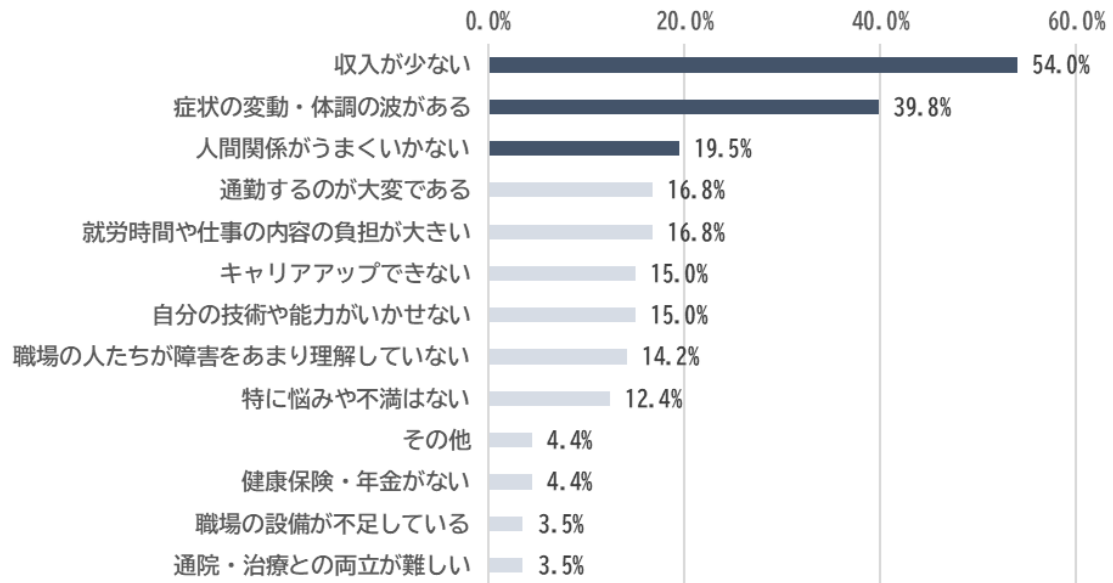
※現在、就労している方のみを集計の対象としております

## 7. 仕事の悩みや不安について

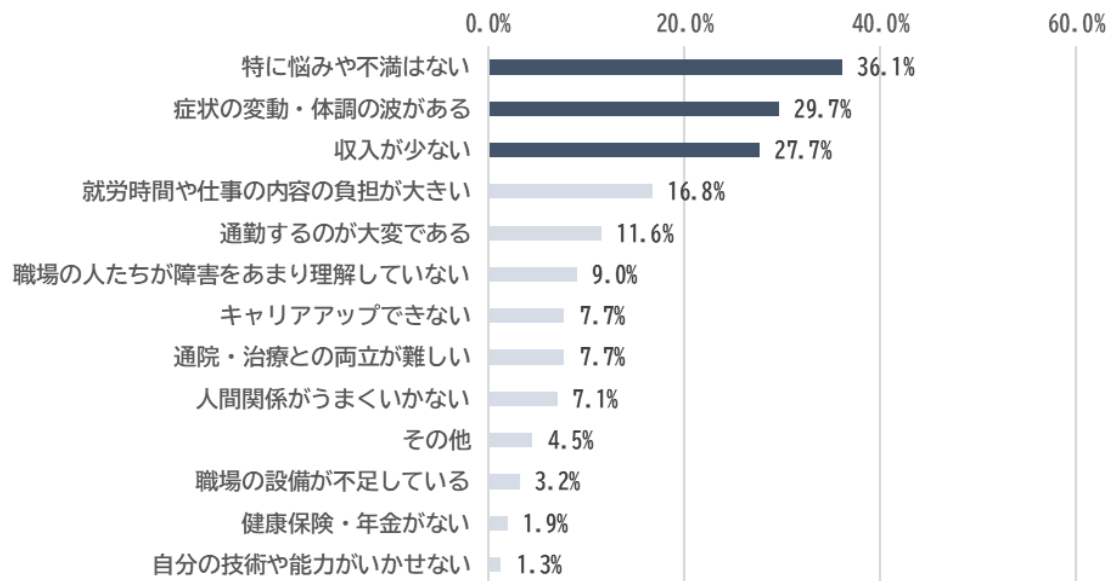
いずれの障害種別においても、収入が少ないと回答した方が多くなっています。また、共通して、人間関係がうまくいかない、症状の変動・体調の波があると回答した方が多い傾向にあります。



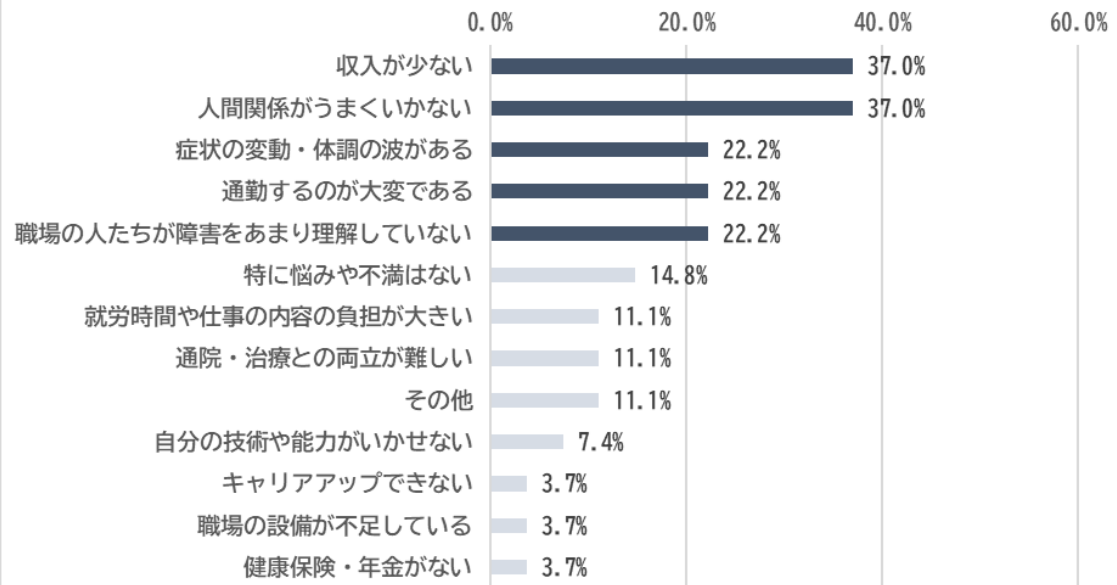
### 精神障害(通院)



### 難病



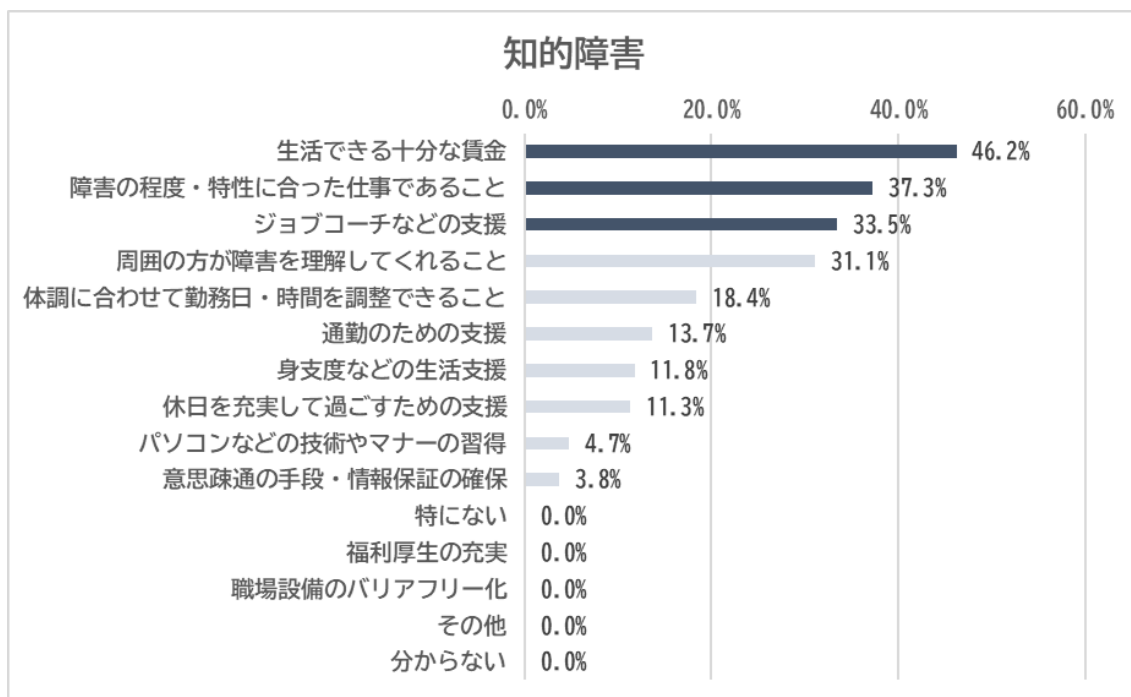
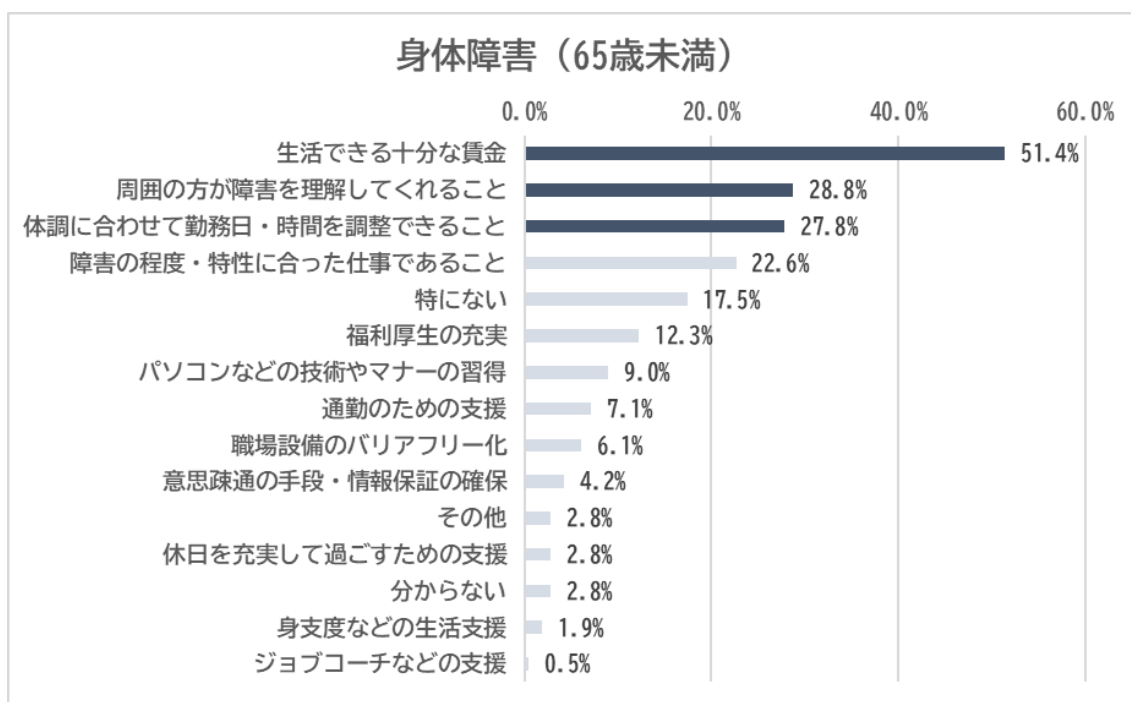
## 発達障害

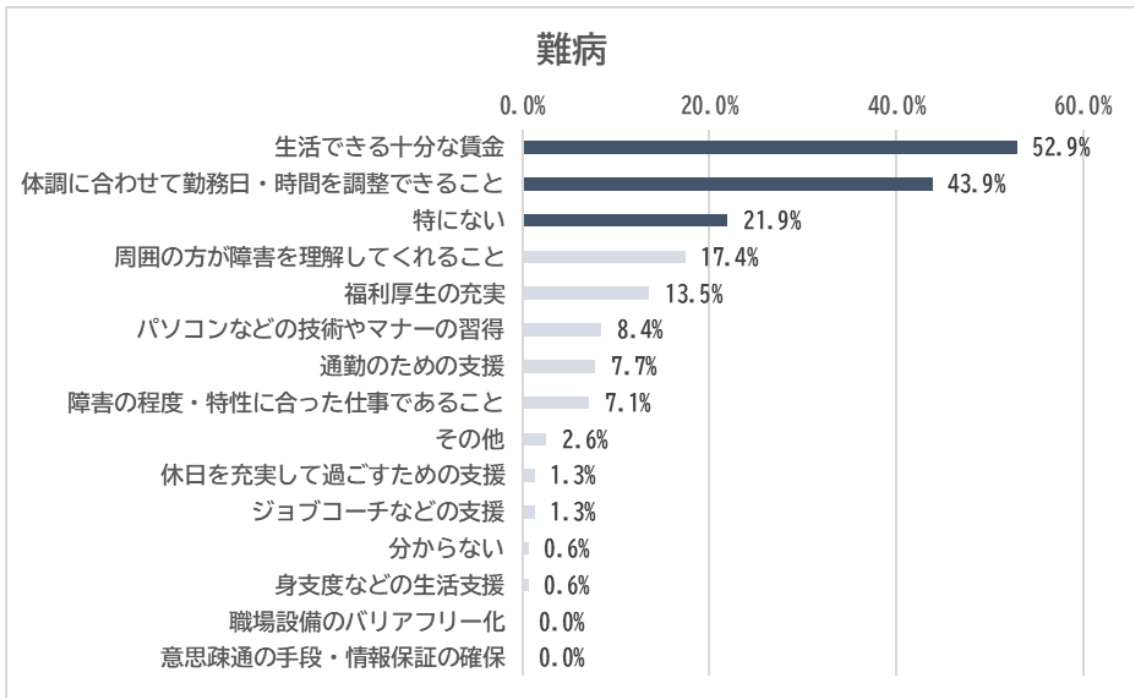
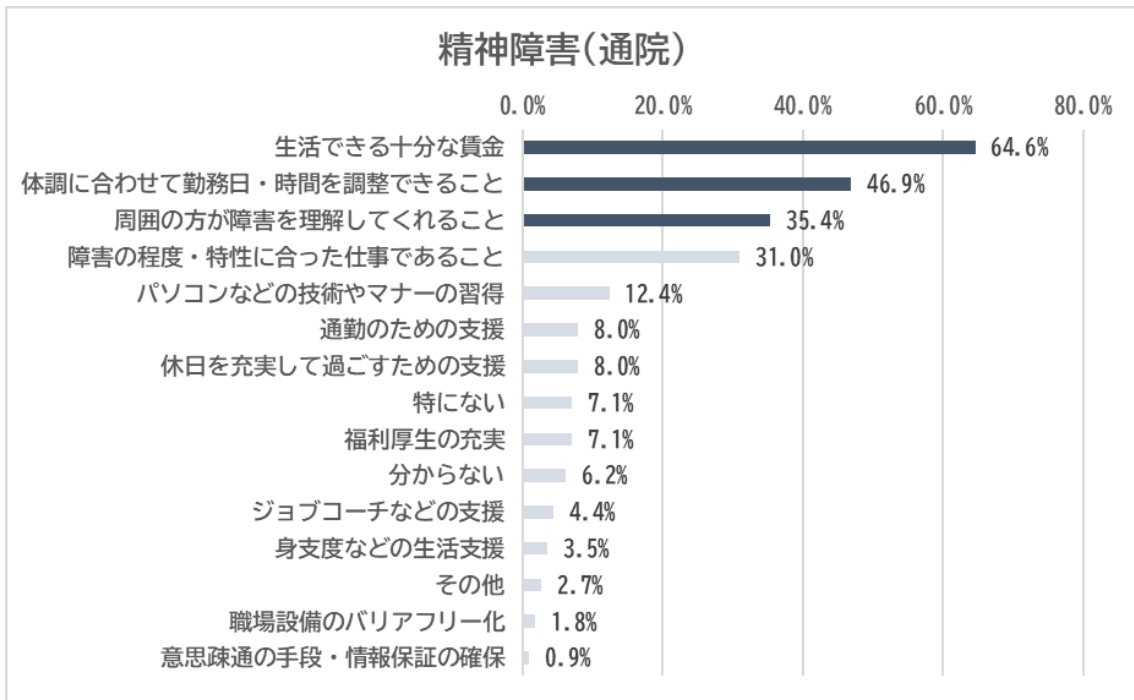


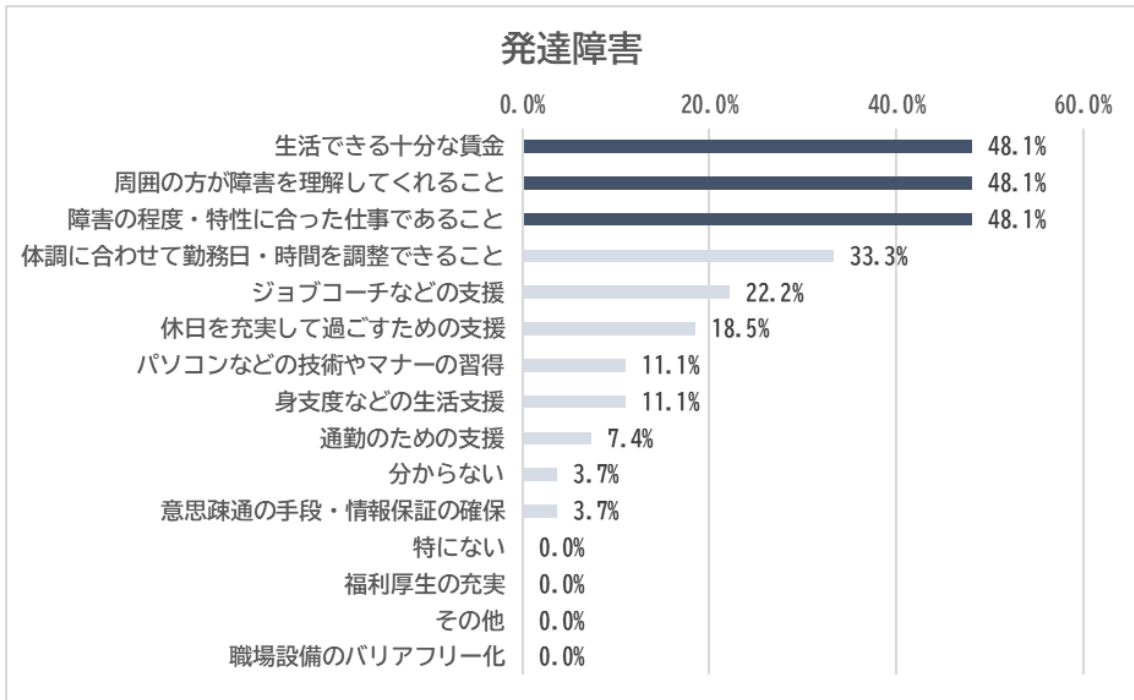


## 8. 仕事を続けるために必要なことについて

いずれの障害種別においても、生活できる十分な賃金と回答した方が多くなっています。また、共通して、周囲の方が障害を理解してくれること、体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できることと回答した方が多い傾向にあります。

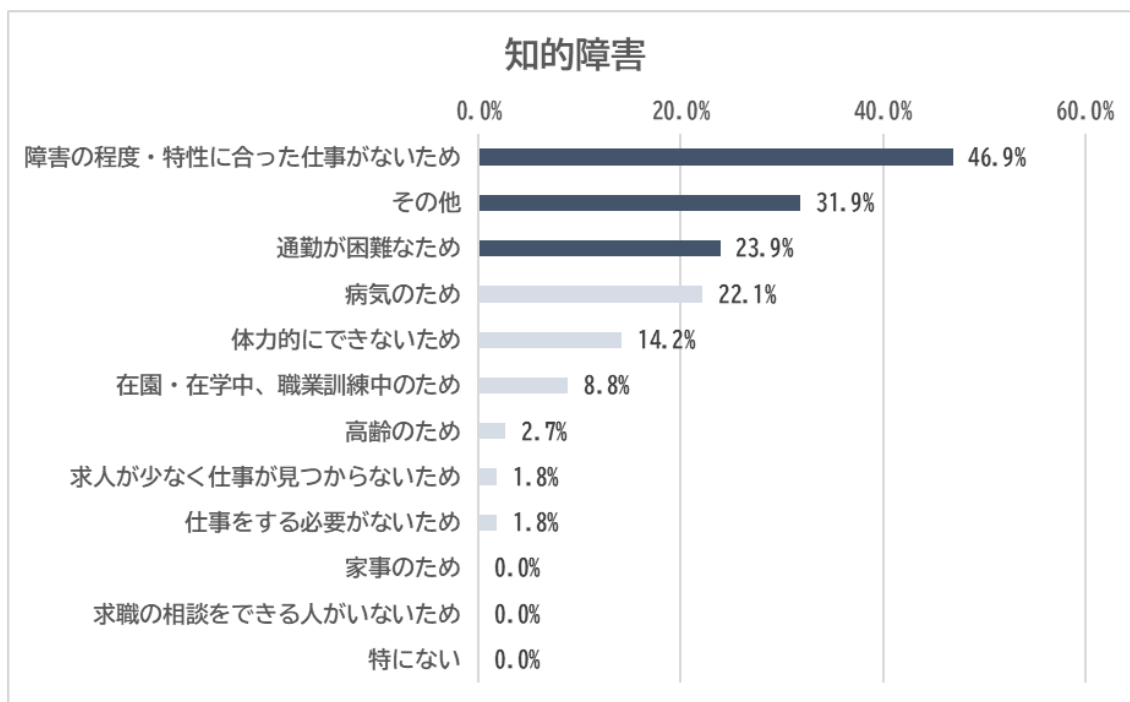
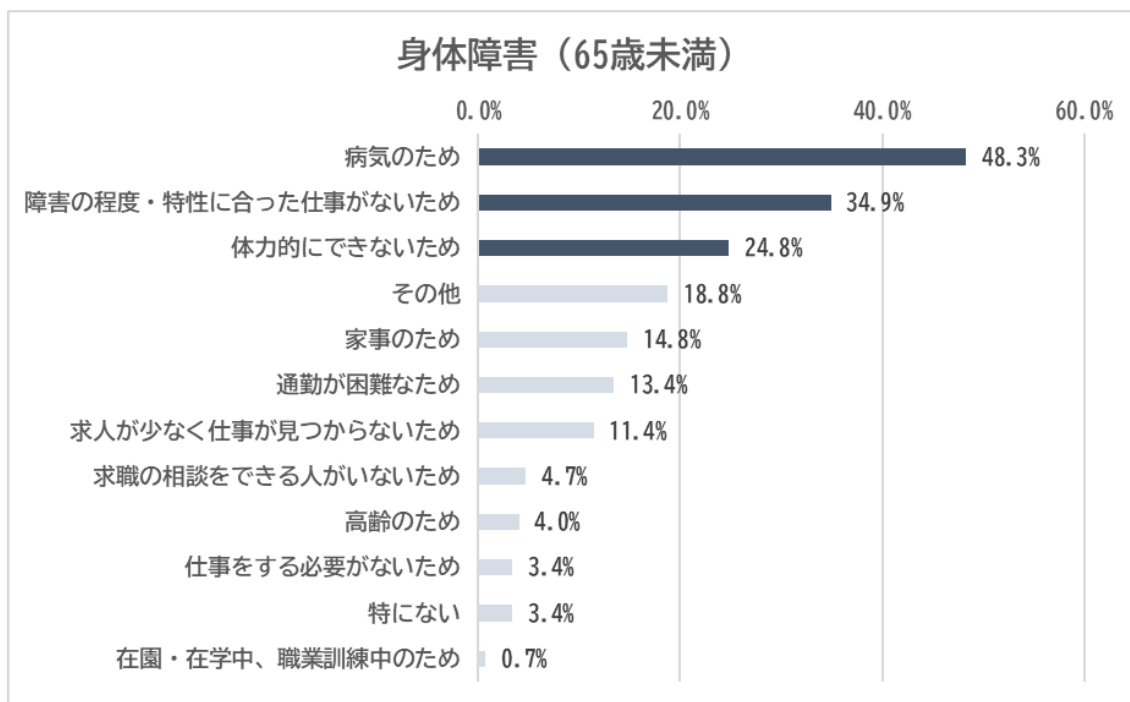


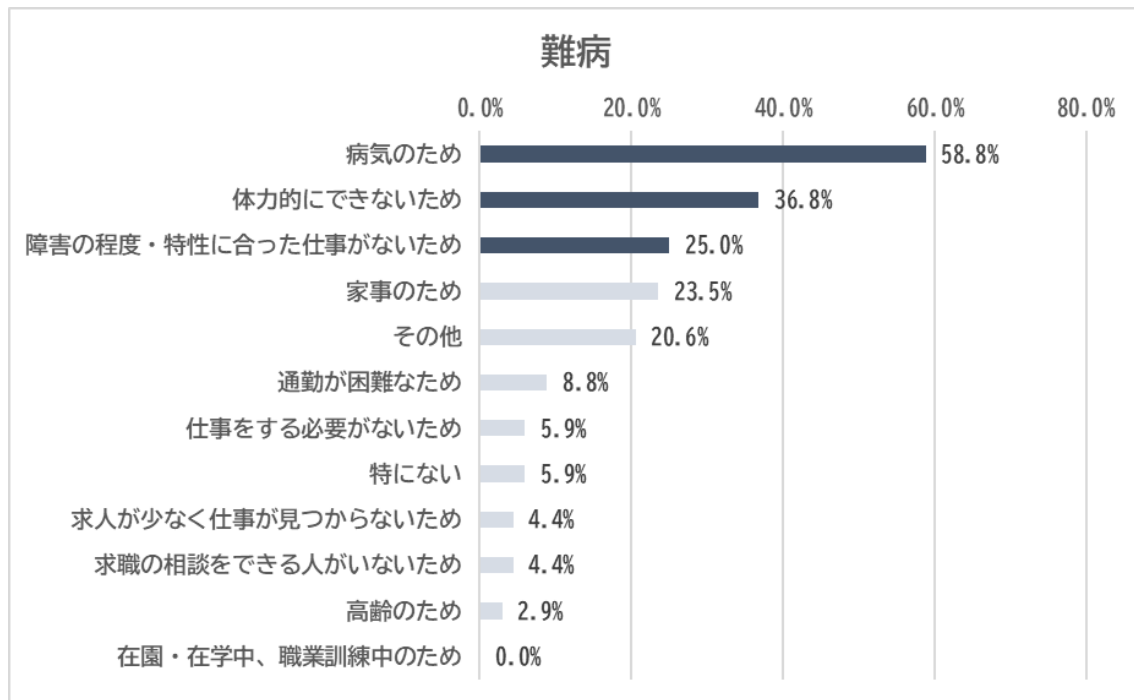
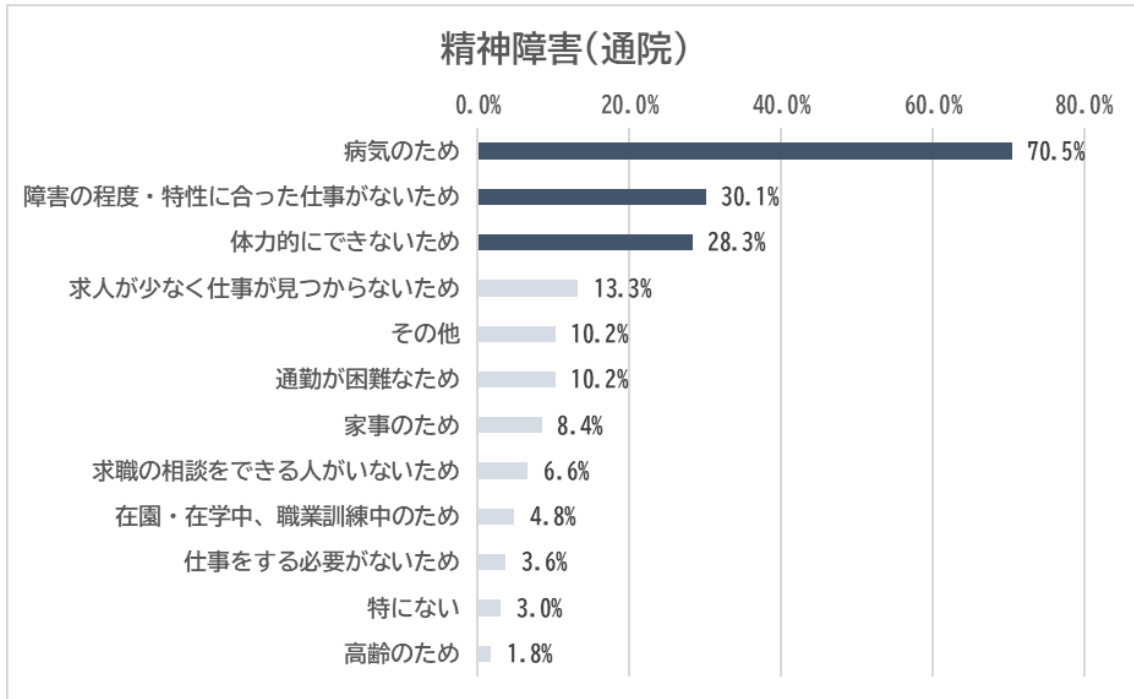




## 9. 就労していない理由について

身体障害（65歳未満）、精神障害（通院）、難病では「病気のため」が最も多くなっています。知的障害、発達障害では、「障害にあった仕事がない」という回答が多くなっています。





## 発達障害

